

田辺三菱製薬株式会社



田辺三菱製薬

2017年度 決算説明会

(2017年4月1日～2018年3月31日)

2018年5月10日

代表取締役社長 三津家 正之

2017年度 決算概要

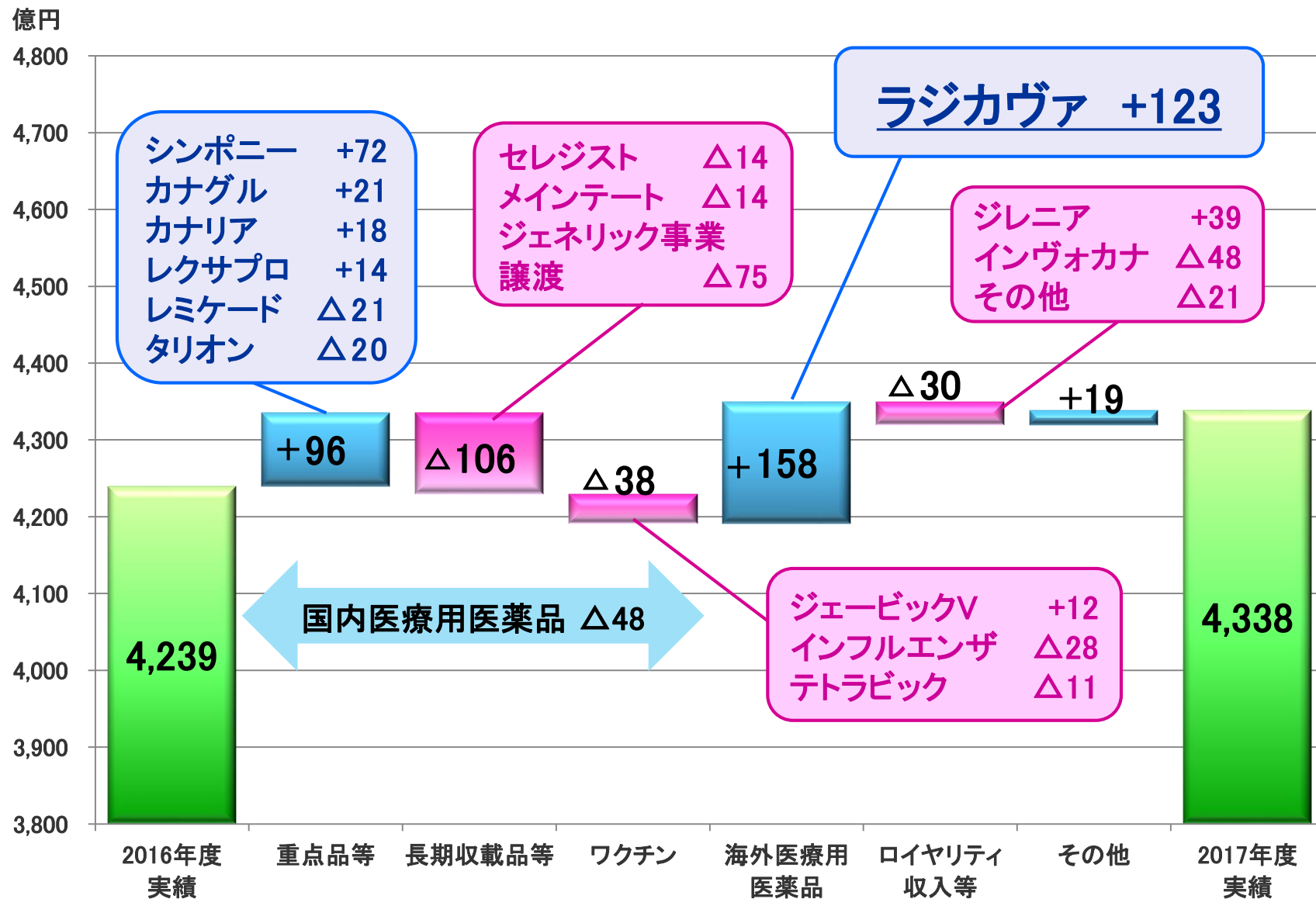
2017年度決算概要

売上収益は、国内の重点品伸長、米国のラジカヴァ発売等により増収

コア営業利益は、ラジカヴァの販売活動費、研究開発費の増加等により減益

	2017年度	2016年度	増減		※2017年度 予想
	億円	億円	億円	%	億円
売上収益	4,338	4,239	+98	+2.3	4,330
（国内売上収益）	3,208	3,203	+5	+0.2	3,246
（海外売上収益）	1,129	1,036	+93	+9.0	1,083
海外売上比率	26.0%	24.4%		+1.6	25.0%
売上原価	1,697	1,643	+53	+3.3	1,695
売上原価率	39.1%	38.8%		+0.3	39.1%
売上総利益	2,641	2,595	+45	+1.7	2,635
コア営業利益	785	945	△159	△16.9	800
営業利益	772	940	△167	△17.9	810
当期利益（親会社帰属）	579	712	△133	△18.7	635

売上収益の増減



売上原価・販管費・コア営業利益

- ラジカヴァの発売等に伴う販管費の増加
- 後期開発 へのステージアップおよびニューロダームの買収等による研究開発費の増加

	2017年度	2016年度	増減	
	億円	億円	億円	%
売上収益	4,338	4,239	+98	+2.3
売上原価	1,697	1,643	+53	+3.3
売上原価率	39.1%	38.8%		+0.3
売上総利益	2,641	2,595	+45	+1.7
販管費	1,040	983	+57	+5.9
研究開発費	790	647	+143	+22.1
製品に係る無形資産償却費	24	15	+9	+60.4
その他損益*	0	△4	+4	-
コア営業利益	785	945	△159	△16.9

* 費用・損失の場合に△と表示

非経常項目・通期利益

非経常項目は、事業譲渡益や固定資産売却益等の収益があったが、減損および事業構造改革費用等が上回る

	2017年度	2016年度	増減	
	億円	億円	億円	%
コア営業利益	785	945	△159	△16.9
非経常項目*	△12	△4	△8	-
営業利益	772	940	△167	△17.9
金融収益	18	22	△3	△15.0
金融費用	4	2	+1	+70.3
当期利益(親会社帰属)	579	712	△133	△18.7

* 費用・損失の場合に△と表示

中期経営計画16-20の実現に向けた 2017年度の成果および2018年度の取り組み

「4つの挑戦」における主な成果／進捗



2020年度目標 売上収益 5,000億円 コア営業利益 1,000億円

1 パイプライン価値最大化

後期開発品目標
(導入品含む) **10**品目創製

研究開発投資
(中計期間中) **4,000**億円

主な成果／進捗

- 後期開発試験 5品目が進捗
 - ✓ MT-2271(季節性インフルVLP) Phase3
 - ✓ MT-6548(腎性貧血) Phase3
 - ✓ MT-5547(変形性関節症) Phase2/3
 - ✓ MT-5199(遅発性ジスキネジア) Phase2/3
 - ✓ ND0612(パーキンソン病) Phase3(準備中)
- 自己免疫疾患領域のパイプラインを拡充
 - ✓ 「STNM01」を獲得(ステリック社)

2 育薬・営業強化

国内売上収益目標
(2020年度) **3,000**億円

新薬および重点品
売上比率 **75%**

重点疾患領域
自己免疫 | 糖尿病・腎 | 中枢神経系 | ワクチン

主な成果／進捗

- 国内医療用医薬品売上(2017年度実績): 3,093億円
- 新薬および重点品売上比率: 63%
- 重点疾患領域
 - ✓ シンポニー、テネリア、カナグル伸長
 - ✓ カナリア承認・発売
 - ✓ ルパフィン発売
- その他
 - ✓ 株式会社BIKENにおけるワクチン製造開始

「4つの挑戦」における主な成果／進捗

3 米国事業展開

米国売上収益目標
(2020年度) **800**億円

米国戦略投資
(中計期間中) **2,000**億円以上

主な成果／進捗

- ラジカヴァ発売
 - ✓ 立ち上がりは順調
 - ✓ 2017年度売上:123億円
 - ✓ 投薬患者数:2,300人(3月末現在)
- ニューロゲーム社買収
 - ✓ 米国での神経疾患領域パイプライン拡充
 - ✓ 10月に買収手続きが完了し、完全子会社化
(総額:約1,200億円)

4 業務生産性改革

売上原価・販管費
低減目標
(2020年度) 対2015年度比較
200億円

従業員数
(2020年度) 国内連結
5,000人体制

主な成果／進捗

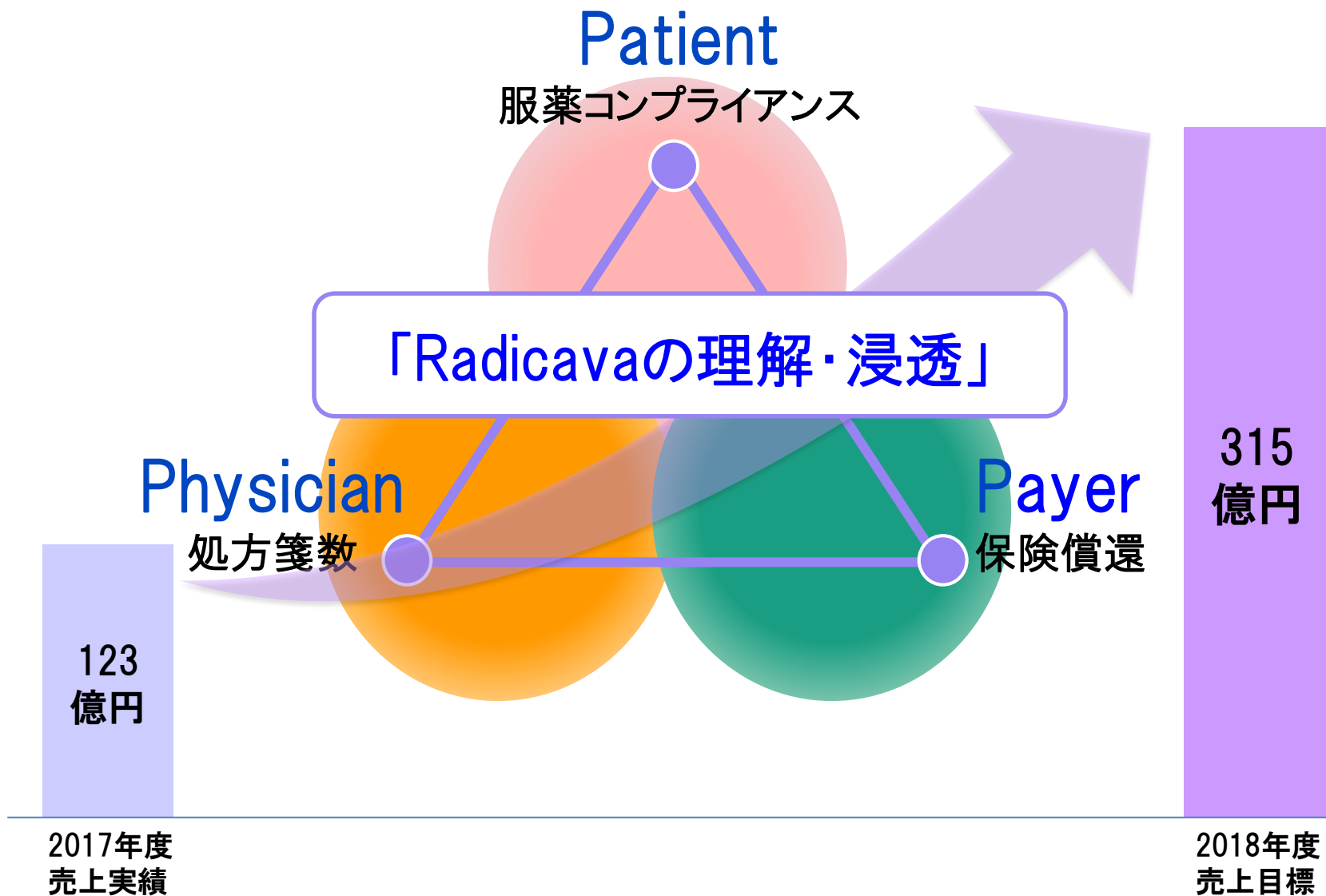
- 140億円 (売上原価低減 45億円、販管費低減 95億円)
(2015年度比)
- 国内連結要員数:2017年度末時点 5,158人
(2015年度末 6,089人 △931人)

米国事業展開のロードマップ

2020年度米国売上収益800億円、その後の成長により、国内に次ぐ第二の事業の柱とする



3 米国事業展開 ラジカヴァ 販売活動



3 米国事業展開 ラジカヴァ 販売活動

3P	2017年度の成果	2018年度の取り組み
Physician	<ul style="list-style-type: none"> - MR訪問活動の推進 ⇒ALS専門医(270名)、神経内科医(第2ターゲット1,300名、第3ターゲット1,400名)への情報提供活動は、100%、90%、60%以上に情報提供を実施 	<ul style="list-style-type: none"> - 医療情報提供による理解浸透 ⇒第1ターゲット370名、第2ターゲット1,000名、第3ターゲット1,000名とし、理解促進を図る
Patient	<ul style="list-style-type: none"> - 治療環境の整備 ⇒投薬患者数(累計)は2,300名 ⇒診療施設40%、注射センター10%、自宅で50% 	<ul style="list-style-type: none"> - 治療開始のリードタイム短縮 - ナースケア活動の強化
Payer	<ul style="list-style-type: none"> - 治療開始までの環境整備 - 臨床データによる製品価値の理解 ⇒Medicare 約47%、プライベート保険 約48%、そのほか5% 	<ul style="list-style-type: none"> - 臨床データの後解析による製品価値の理解浸透
売上	123億円	315億円

3 米国事業展開 ラジカヴァ 価値最大化

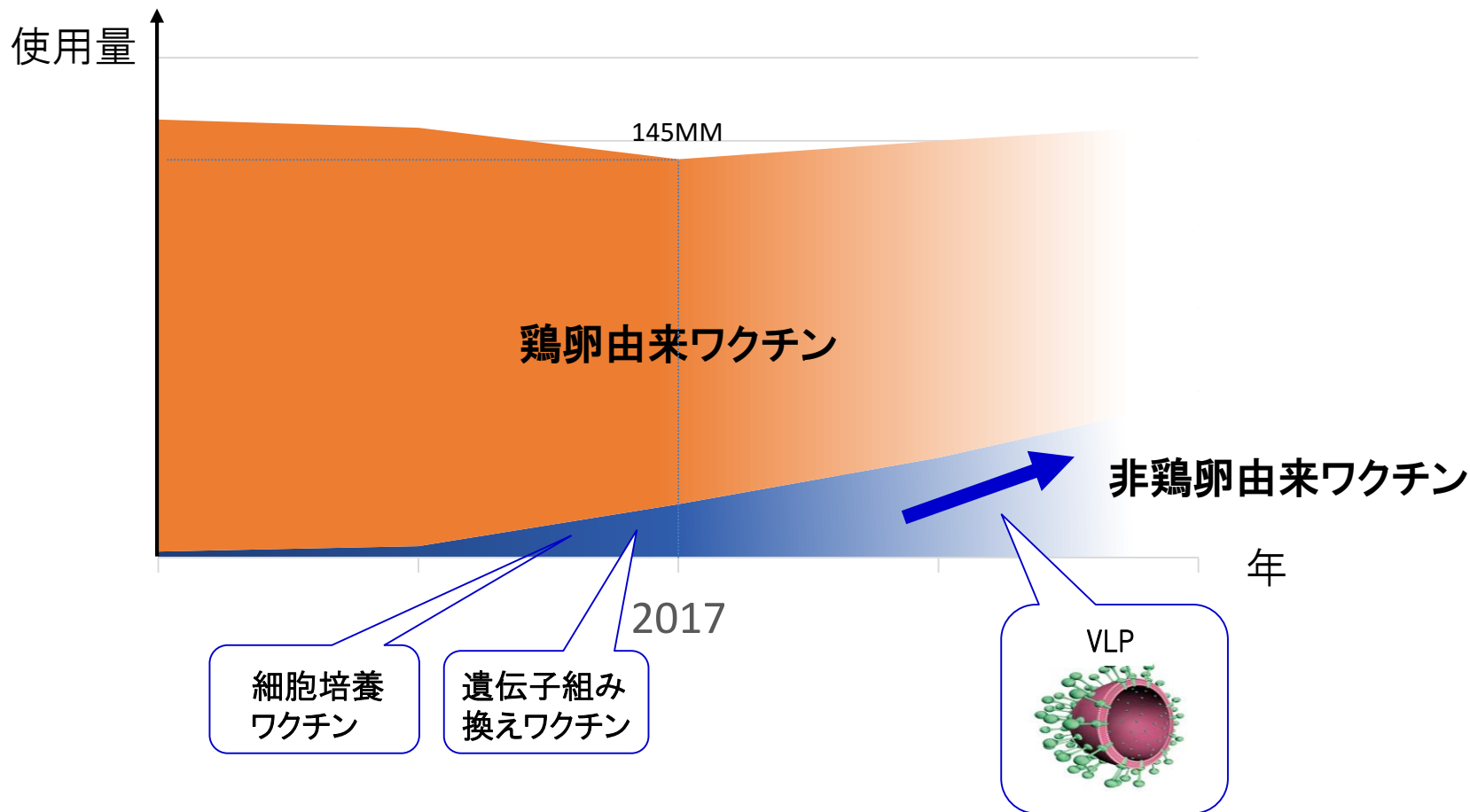
価値最大化		2017年度	2018年度の取り組み
事業展開地域(適応症: ALS)	スイス	申請受理	承認目標
	カナダ	—	申請受理(4月) 承認目標
	欧州	当局相談実施	申請準備中
	ASEAN他	検討中	検討中
LCM(ライフ・サイクル・マネジメント)	60mg点滴静注バッグ製剤(1回2袋投与から1回1袋投与へ簡便化)	申請	2019年度上市目標
	MT-1186(新投与経路製剤)の開発	—	Phase1開始

3 米国事業展開 MT-2271(メディカゴ社)

MT-2271 : 植物由来インフルエンザVLPワクチン

	2017年度	2018年度	2019年度
成人	8月 (米国・欧州・カナダ他)	Phase3 4月 試験終了 ◆ 2Q:トップラインデータ取得 FDA申請	承認
小児		2Q Phase3	

3 米国事業展開 MT-2271(メディカゴ社)



米国の季節性インフルエンザワクチン市場 約2,400億円

1 パイプライン価値最大化

自己免疫疾患領域

品目	2017年度	2018年度の取り組み
MT-1303 (S1P受容体機能的 アンタゴニスト)	自社単独での開発方針を見直し	アライアンス活動を推進
MT-5547 (抗NGF抗体)	Phase 2/3 試験を開始 (日本、変形性関節症)	Phase 2/3 試験を推進
MT-7117 (皮膚科用剤 等)	Phase 1 試験を終了	Phase 2 試験を開始 (POC取得予定、海外)
MT-2990 (炎症・自己免疫疾患 等)	Phase 1 試験を開始	Phase 2 試験を開始 (POC取得予定、海外)

1 パイプライン価値最大化

糖尿病・腎疾患領域

品目	2017年度	2018年度の取り組み
MT-6548 (HIF-PH阻害剤)	Phase 3 試験を開始 (日本、腎性貧血)	Phase 3 試験を推進 2020年度承認予定
TA-7284 (SGLT2阻害剤)	CREDENCE試験を実施 (日、米、欧他、糖尿病性腎症)	2019年6月試験終了予定 糖尿病性腎症の承認取得に向けて検討
MT-3995 (選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗剤)	NASH(非アルコール性脂肪性肝炎)に注力し、Phase 2 試験を実施(日本)	アライアンス活動を推進

1 パイプライン価値最大化

中枢神経系疾患領域

品目	2017年度	2018年度の取り組み
MT-5199 (VMAT2阻害剤)	Phase 2/3 試験を開始 (日本、遅発性ジスキネジア)	Phase 2/3 試験を推進 2021年度承認予定
MT-8554 (神経系用剤 等)	欧、米で、Phase 2 試験を開始 (欧:糖尿病性末梢神経障害に伴う疼痛) (米:更年期に伴う血管運動神経症状)	2018年度3Q POC取得予定
ND0612 (レボドパ/カルビドパ)	ND社の完全子会社化(2017年10月) 長期安全性試験を実施	Phase 3 試験(米国、欧州) を開始
MT-1186 (エダラホン/新投与経路)	ALS患者さんの利便性向上を めざした新剤型を検討	Phase 1 試験を開始

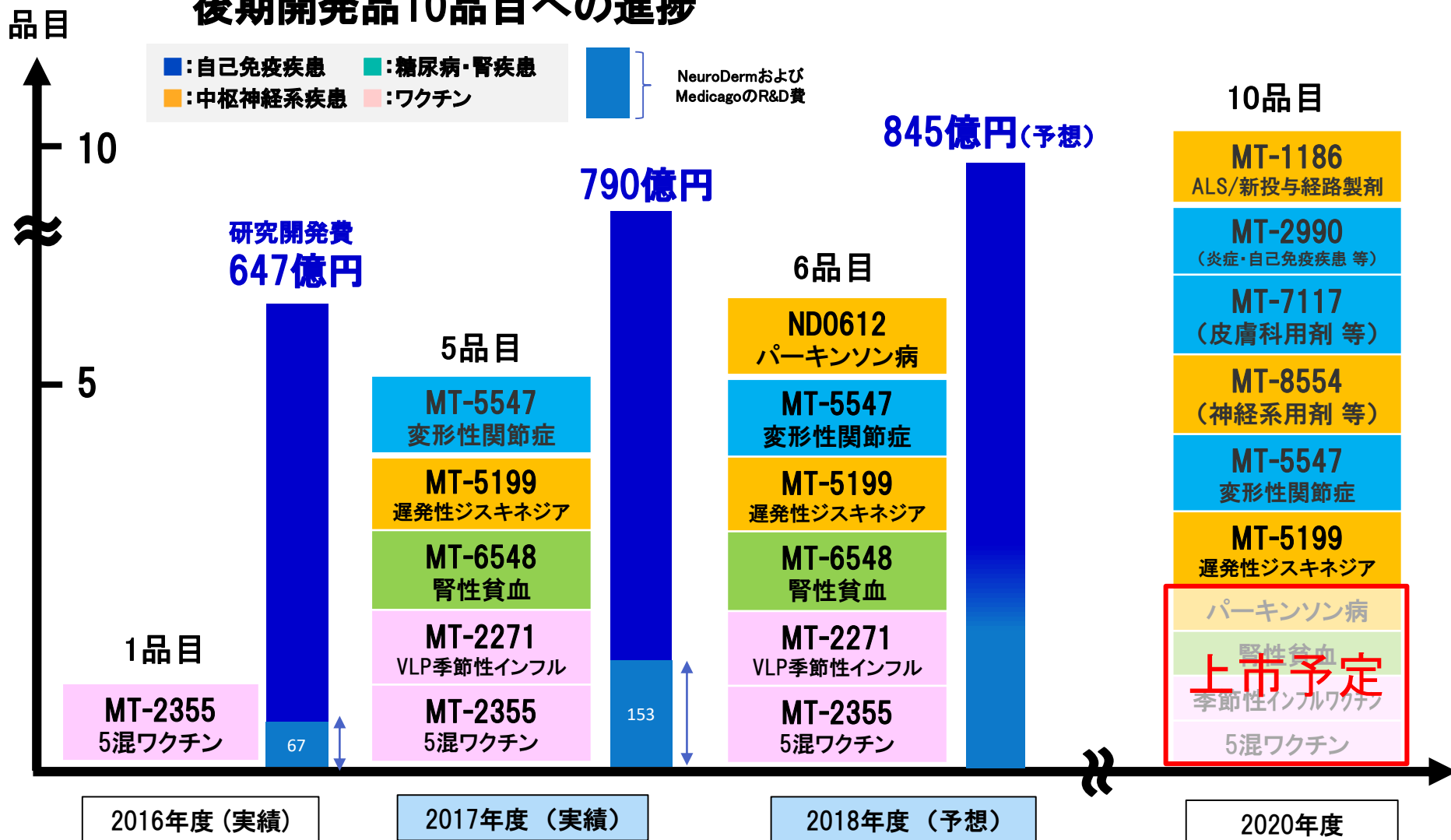
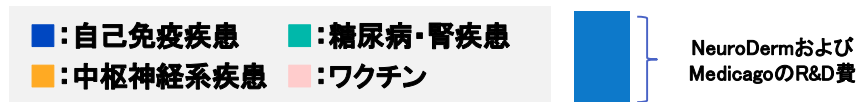
1 パイプライン価値最大化

ワクチン

品目	2017年度	2018年度の取り組み
MT-2355 (4混+Hibワクチン)	Phase 3 試験を実施(日本)	Phase 3 試験を推進
MT-2271 (植物由来VLPワクチン、 季節性インフルエンザ)	Phase 3 試験(成人)を開始 (米、欧、加、他)	北米で2018年度承認申請、 2019年度承認予定

1 パイプライン価値最大化

後期開発品10品目への進捗

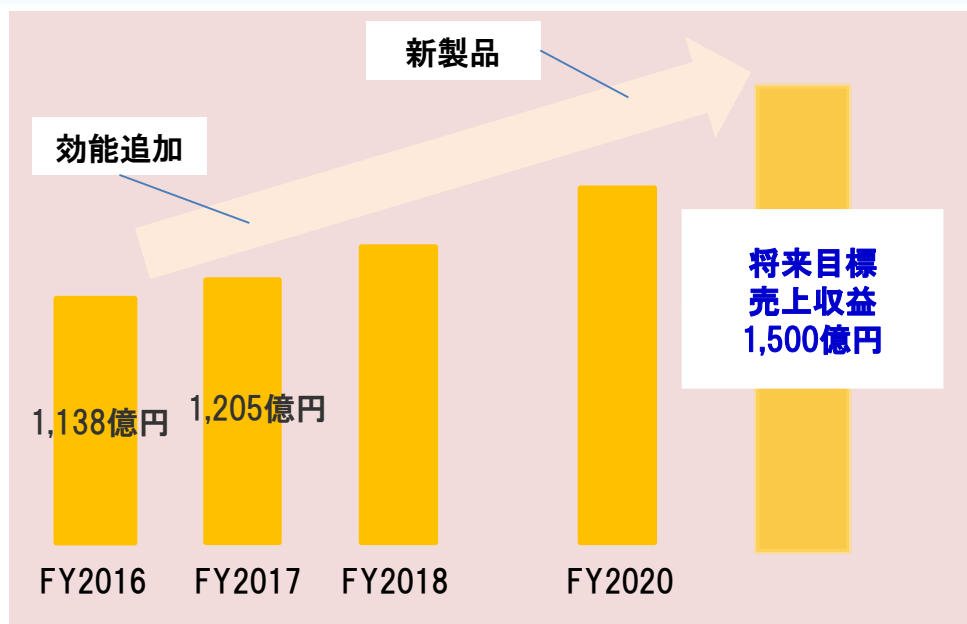


2 育薬・営業強化

自己免疫疾患領域

静注・皮下注両剤の価値最大化
 将来目標売上収益1,500億円を
 達成する

売上イメージ
 (数値は薬価ベース)



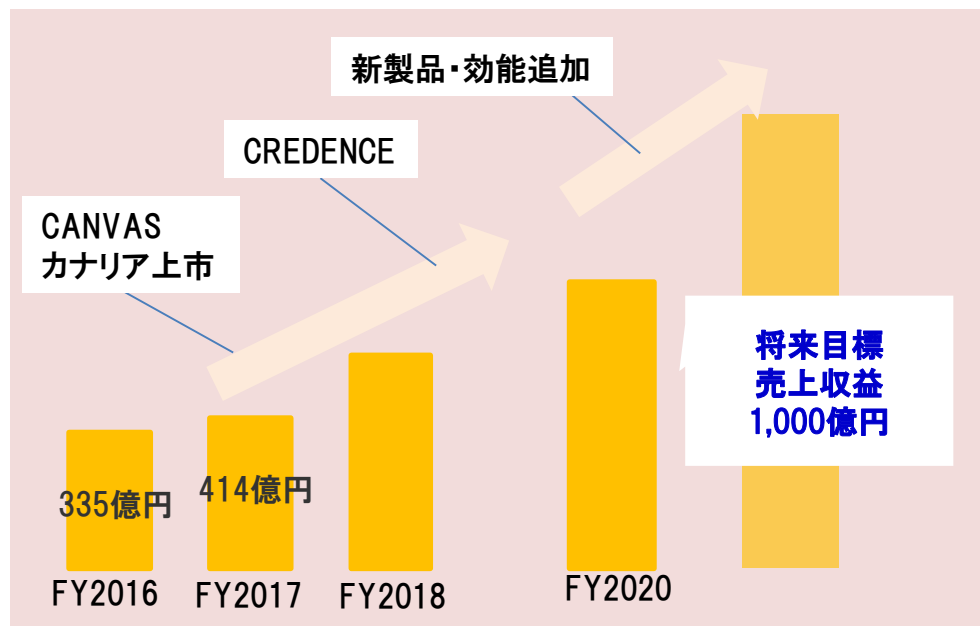
品目	2017年度の成果	2018年度の取り組み
レミケード	クローン病について投与間隔短縮承認	ステラーラと合わせてクローン病におけるシェアの最大化
シンポニー	レミケード・シンポニー シェアNo.1 (2017年度シェア 37%)	静注・皮下注両剤のメリットの最大化によるシェア拡大
	関節リウマチについて在宅自己注射の保険適用 潰瘍性大腸炎で初年度シェア10%達成	
ステラーラ	クローン病適応についてヤンセンファーマとのコプロモーション開始	ヤンセンファーマとの協業体制強化によるシェア拡大

2 育薬・営業強化

糖尿病・腎疾患領域

糖尿病3剤の価値最大化を通じ
 領域プレゼンスNo.1を獲得し、
 将来売上目標1,000億円を達成する

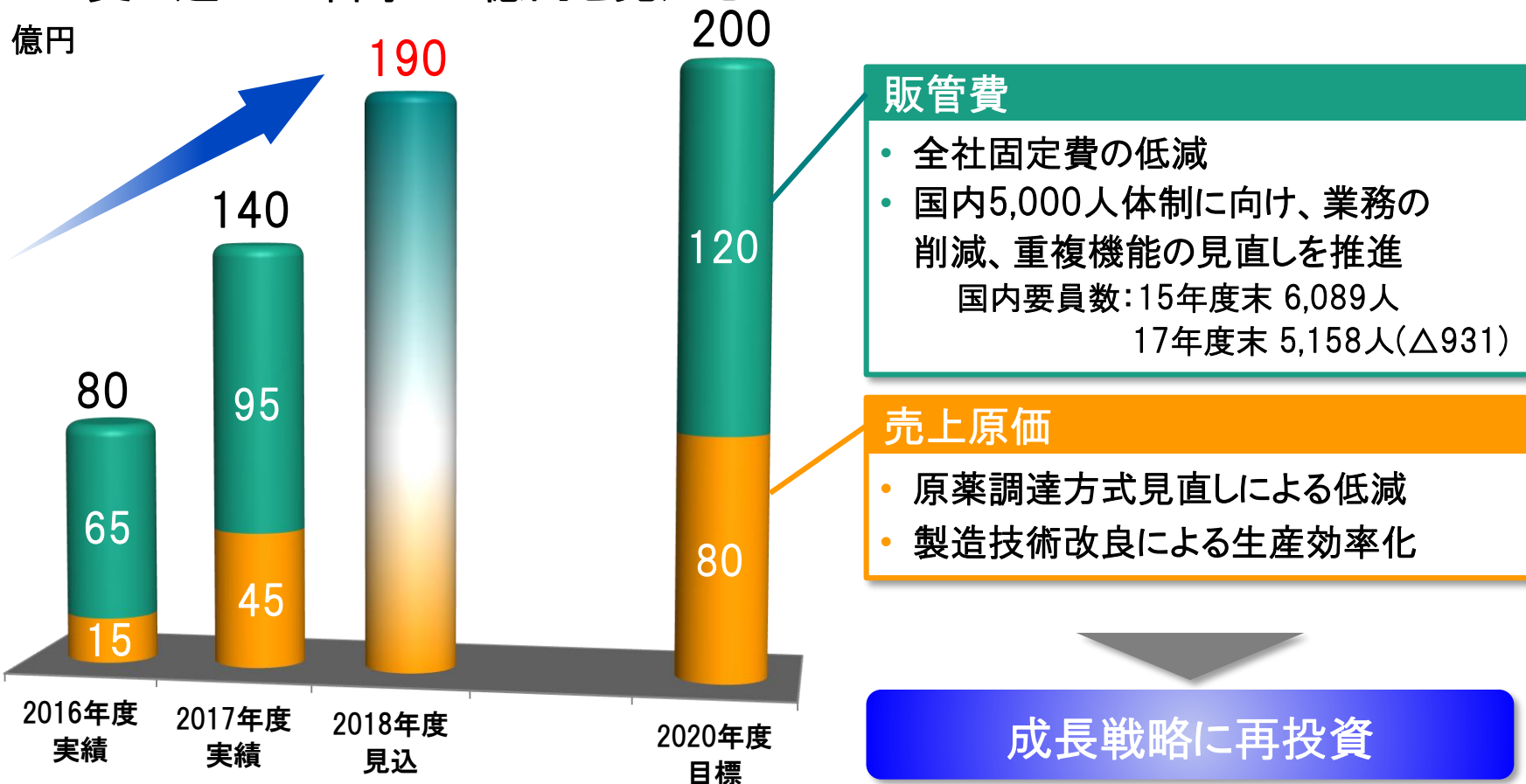
売上イメージ
 (数値は薬価ベース)



品目	2017年度の成果	2018年度の取り組み
テネリア	高齢者又は腎機能低下例への処方浸透によりシェア拡大	第一三共との連携強化により高市場先でのシェア伸長をめざす
カナグル	CANVAS Program発表による心・腎疾患合併例への処方拡大	心・腎エビデンスの提案により更なるシェア伸長をめざす
カナリア	2017年9月 新発売	No.1配合剤のポジション確立

4 業務生産性改革

- 2017年度は、原価低減、事業構造改革、および要員自然減等により140億円(目標は100億円)
- 2018年度は、事業構造改革の期間差に加え、原価低減、販管費削減を更に進めて年間190億円を見込む



* ベンチマークは2015年度

2018年度 業績予想

2018年度 業績予想

米国ラジカヴァ伸長により、国内薬価改定の影響及びロイヤリティ収入の減少をカバー
薬価改定の影響及び製品構成の変化による原価率の上昇

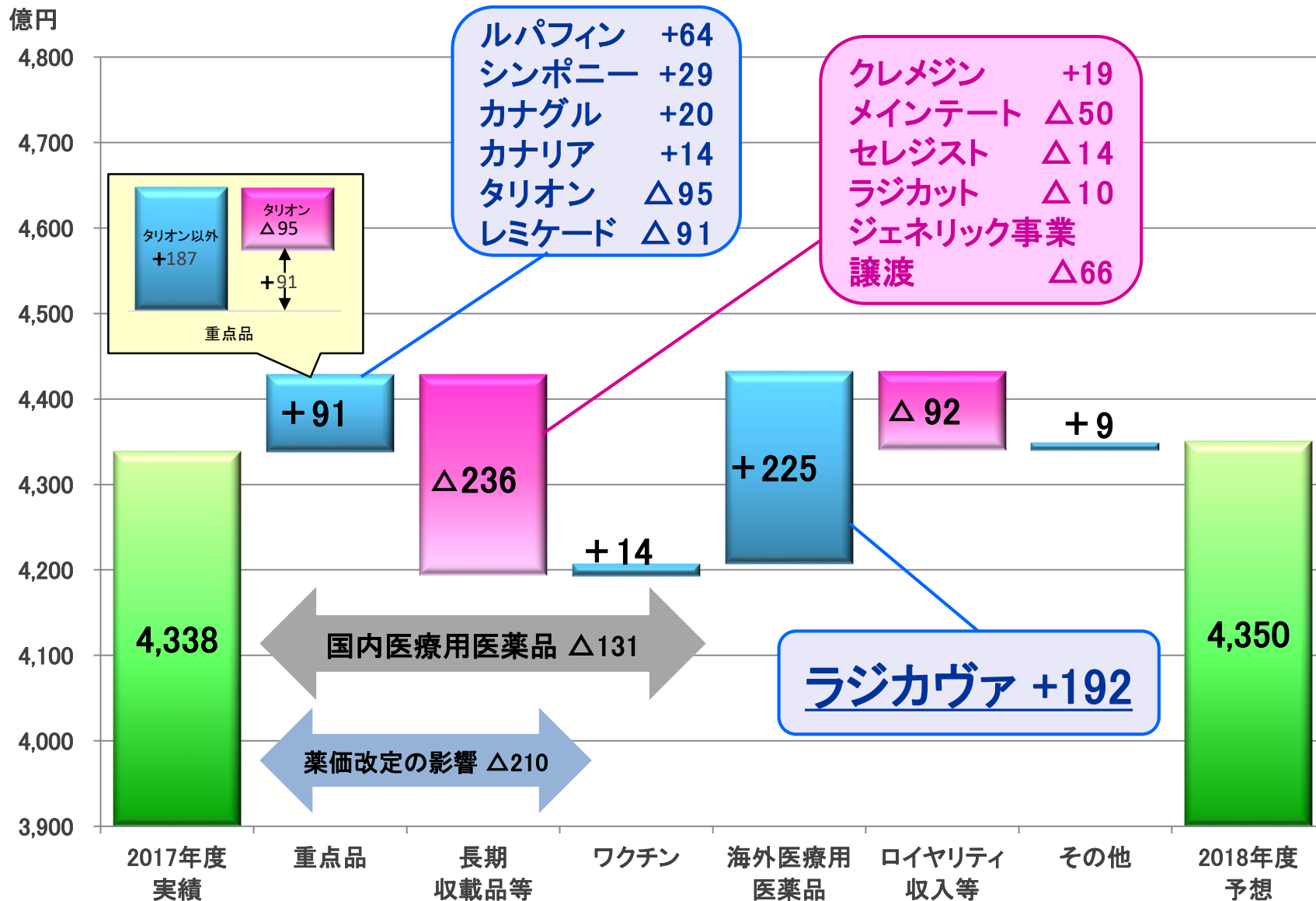
	2018年度 予想	2017年度 実績	増減	
	億円	億円	億円	%
売上収益	4,350	4,338	+11	+0.3
（国内売上収益）	3,047	3,208	△161	△5.0
（海外売上収益）	1,302	1,129	+172	+15.3
海外売上比率	29.9%	26.0%		
売上原価	1,760	1,697	+62	+3.7
売上原価率	40.5%	39.1%		
売上総利益	2,590	2,641	△51	△1.9
コア営業利益	700	785	△85	△10.9
当期利益（親会社帰属）	470	579	△109	△18.9

為替レート（\$）

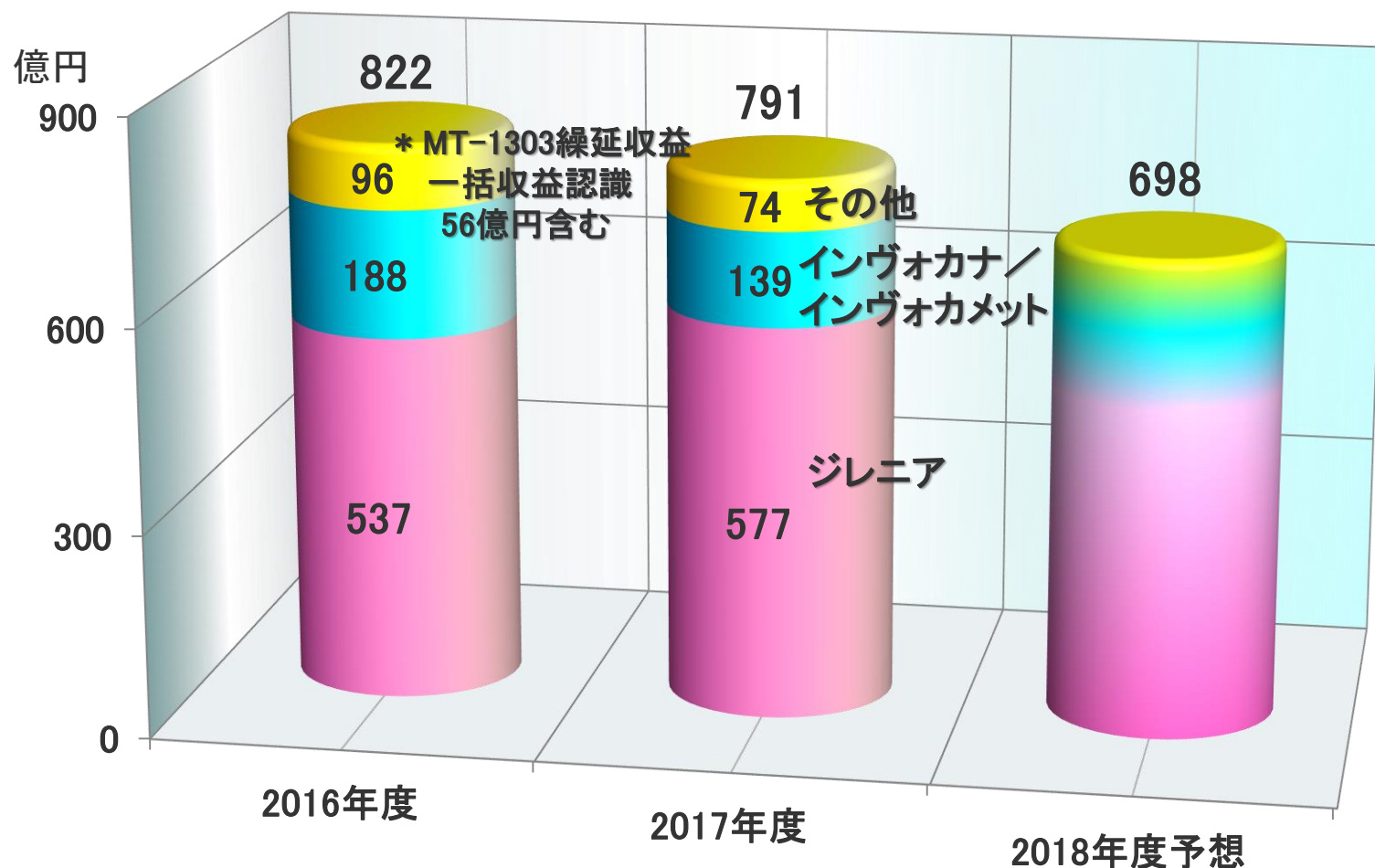
105.00円

110.70円

売上収益の増減



ロイヤリティ収入等



<為替レート(期中平均)>

米ドル 108.72円

110.70円

105.00円

為替影響(前期比較): △31億円

後期開発推進に伴う研究開発費増加等により、コア営業利益は減益

	2018年度 予想	2017年度 実績	増減	
	億円	億円	億円	%
売上収益	4,350	4,338	+11	+0.3
売上原価	1,760	1,697	+62	+3.7
売上原価率	40.5%	39.1%		
売上総利益	2,590	2,641	△51	△1.9
販管費	1,010	1,040	△30	△2.9
研究開発費	845	790	+54	+6.8
製品に係る無形資産償却費	30	24	+5	+22.4
その他の損益*	△5	0	△5	—
コア営業利益	700	785	△85	△10.9

* 費用・損失の場合に△と表示

非経常項目において資産整理に伴う構造改革費用の発生

	2018年度 予想	2017年度 実績	増減	
	億円	億円	億円	%
コア営業利益	700	785	△85	△10.9
非経常項目*	△30	△12	△17	—
営業利益	670	772	△102	△13.3
当期利益(親会社帰属)	470	579	△109	△18.9

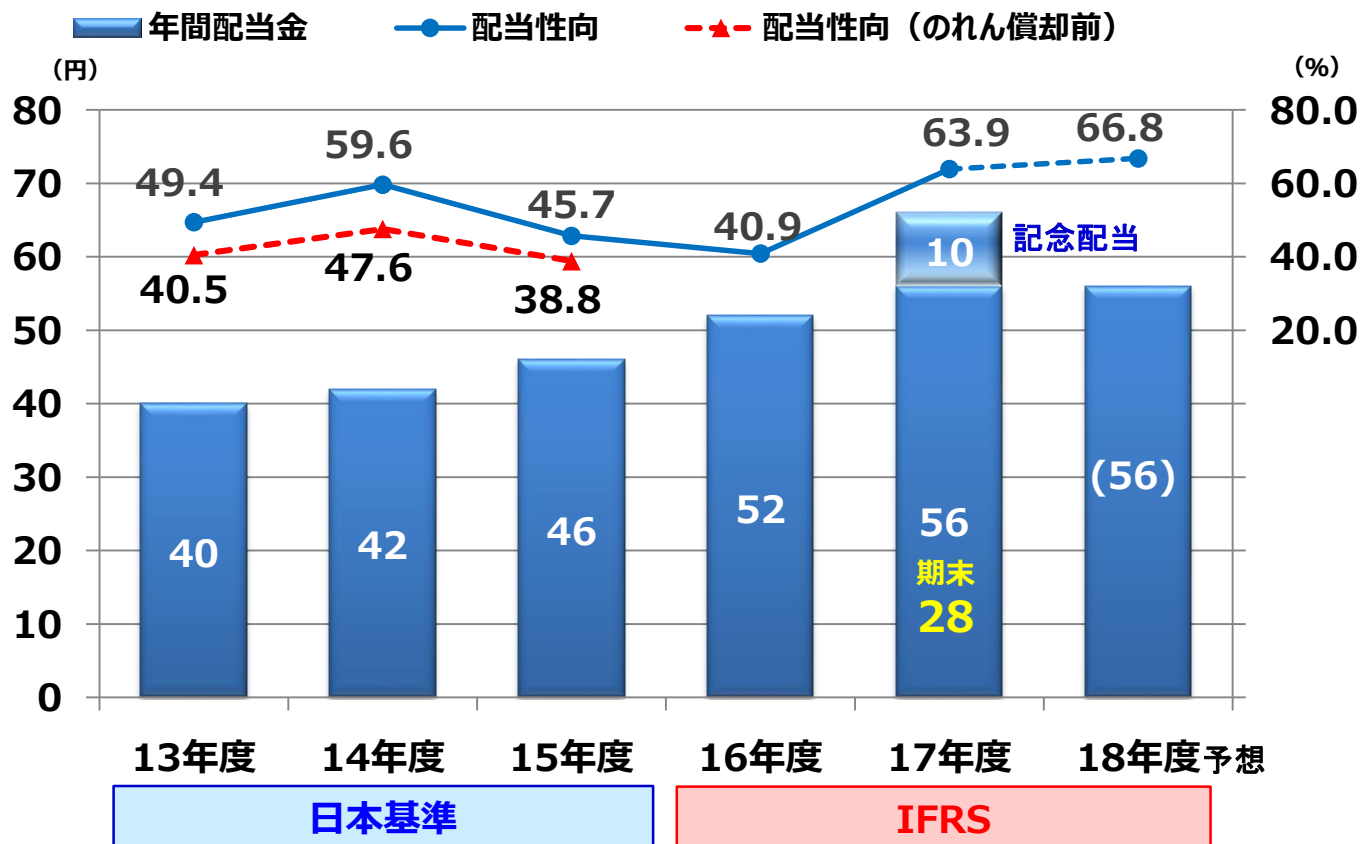
* 費用・損失の場合に△と表示

株主還元



配当金推移

- 方針) 戦略的投資・研究開発投資により企業価値の増大を図り、安定的かつ継続的に株主還元を行う。「中計16-20」期間中は、連結配当性向50%(IFRS)を目途に、中長期的な利益成長に基づいた配当を行う。
- 2017年度期末配当金は、従来予想通り28円。



2018年度の主なイベント

2018年度の主なイベント

2018年 7月下旬	1Q決算発表
2018年10月下旬	2Q決算発表
2018年11月20日	投資家向け事業説明会 @東京
2019年 2月上旬	3Q決算発表

Open Up the Future

医療の未来を切り拓く

独自の価値を一番乗りでお届けする、
スピード感のある企業へ



田辺三菱製薬

補足資料



	2017年度	2016年度	増減		※2017年度 予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上収益	4,338	4,239	+98	+2.3	4,330	100.2
(うち海外売上収益)	1,129	1,036	+93	+9.0	1,083	104.3
国内医療用医薬品	3,093	3,142	△48	△1.5	3,154	98.1
海外医療用医薬品	385	226	+158	+70.0	324	118.7
ロイヤリティ収入等	791	822	△30	△3.8	802	98.6
一般用医薬品	37	34	+3	+9.3	41	89.0
その他	30	14	+16	+113.9	9	306.3

※2017年度予想:2017年10月24日公表

国内医療用医薬品 重点品売上収益

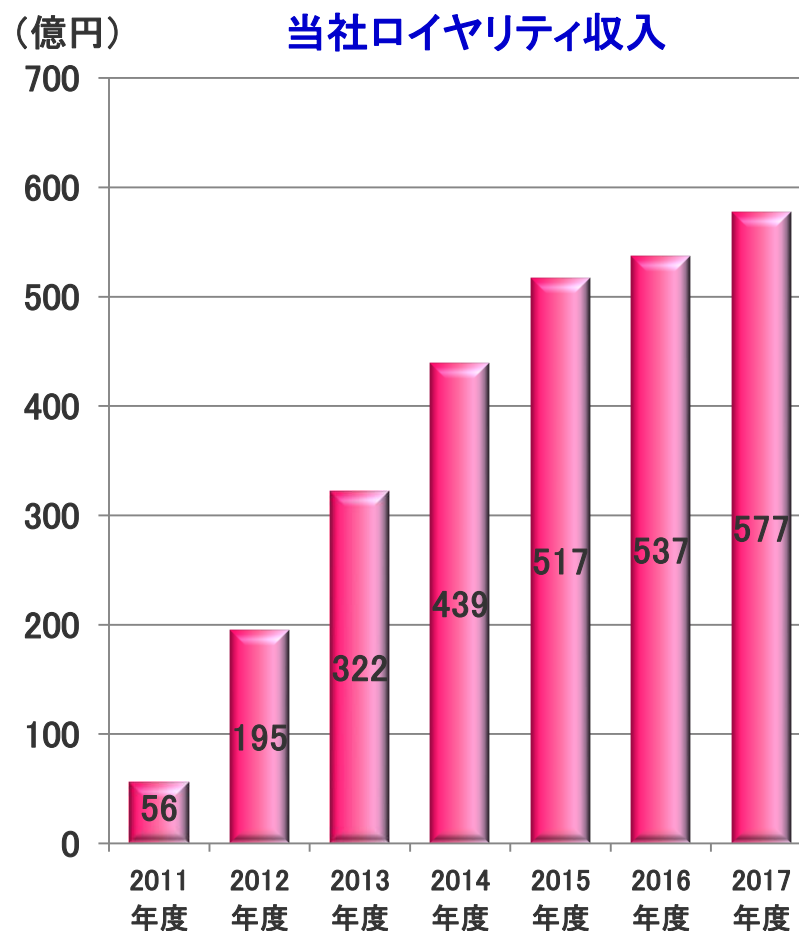
	2017年度		2016年度		増減		※2017年度 予想	達成率
	億円	億円	億円	億円	億円	%	億円	%
レミケード	646	668	△21	△3.2	647	100.0		
シンポニー	321	249	+72	+29.0	303	105.9		
テネリア	175	165	+9	+5.8	191	91.7		
タリオン	169	189	△20	△10.7	208	81.4		
レクサプロ	127	112	+14	+13.2	129	98.8		
カナグル	56	34	+21	+60.8	69	80.8		
イムセラ	47	49	△1	△3.5	51	92.7		
重点品合計	1,544	1,469	+74	+5.1	1,599	96.5		
(新製品)カナリア	18	-	+18	-	非開示	-		
ルパフィン	4	-	+4	-	非開示	-		
インフルエンザワクチン	99	127	△28	△22.2	100	99.1		
テトラビック	87	99	△11	△12.0	92	95.1		
水痘ワクチン	52	54	△1	△3.2	57	91.8		
ジェービックV	52	39	+12	+30.4	49	104.8		
ミールビック	50	59	△8	△15.0	52	95.1		
ワクチン合計	350	389	△38	△10.0	361	97.2		
重点品・ワクチン合計	1,894	1,859	+35	+1.9	1,960	96.6		

※2017年度予想:2017年10月24日公表

国内医療用医薬品 重点品売上予想

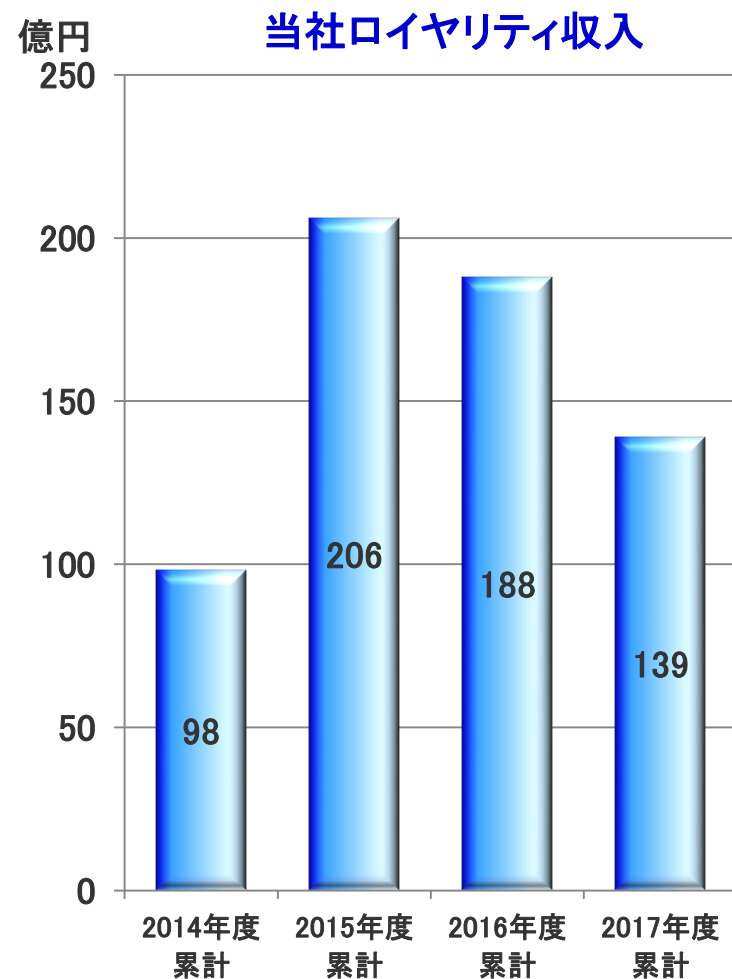
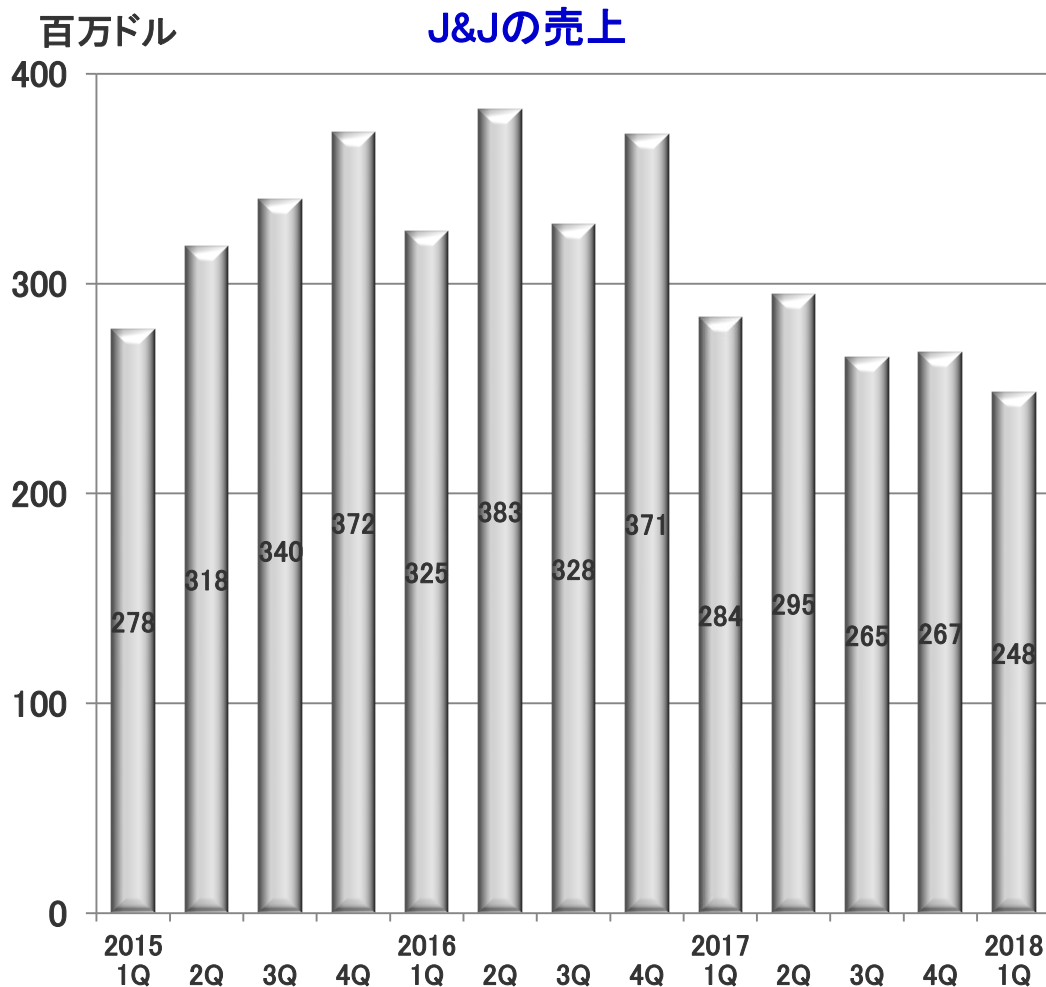
	2018年度	2017年度	増減	
		億円	億円	%
レミケード	555	646	△91	△14.1
シンポニー	350	321	+29	+9.2
テネリア	170	175	△4	△2.8
レクサプロ	131	127	+3	+3.1
カナグル	76	56	+20	+36.5
タリオン	73	169	△95	△56.6
ルパフィン	68	4	+64	+1,464.8
イムセラ	49	47	+2	+5.4
カナリア	32	18	+14	+79.6
重点品合計	1,509	1,566	△56	△3.6
インフルエンザワクチン	112	99	+12	+12.8
テトラビック	91	87	+3	+4.2
水痘ワクチン	55	52	+2	+4.2
ミールビック	55	50	+5	+11.1
ジェービックV	43	52	△8	△17.1
ワクチン合計	365	350	+14	+4.2
重点品・ワクチン合計	1,875	1,917	△42	△2.2

- ◆ ノバルティスの2018年1Q(2018年1-3月)売上高は821百万ドル(前年同期 722百万ドル)
- ◆ 当社2017年度(2017年4-2018年3月)のロイヤリティ収入は577億円



インヴォカナ・インヴォカメット

- ◆ J&Jの2018年1Q(2018年1-3月)売上高は248百万ドル(前年同期 284百万ドル)
- ◆ 当社2017年度累計(2017年4月-2018年3月)のロイヤリティ収入は139億円



赤字: 2018年度第3四半期決算発表 (2018年2月5日) 以降進捗

2018年4月30日現在

フェーズ1試験

- MT-7529
インフルエンザ[H7N9] 予防
- GB-1057
血液及び体液用剤
- MP-124
神経系用剤
- MT-0814
眼科用剤
- MT-7117
皮膚科用剤等
- MT-4129
循環器官用剤等
- MT-2990
炎症・自己免疫疾患等
- MT-2765
循環器官用剤等
- ND0701
パーキンソン病
- MT-1186
筋萎縮性側索硬化症
(新投与経路)

フェーズ2試験

- MT-1303 (欧州)
多発性硬化症、乾癬
- MT-1303 (日本、欧州)
クローン病
- MP-513 (欧州)
2型糖尿病
- MT-3995 (日本、欧州)
糖尿病性腎症
- MT-8972 (カナダ)
インフルエンザ[H5N1] 予防
- MT-3995 (日本)
非アルコール性脂肪性肝炎
- MT-8554 (欧州)
糖尿病性末梢神経障害に
伴う疼痛
- ND0612 (米国、欧州)
パーキンソン病
- ND0801 (イスラエル)
中枢神経系疾患に伴う
認知障害
- MT-8554 (米国)
更年期に伴う血管運動神経症状

フェーズ3試験

- カナグル (国際共同治験)*1
糖尿病性腎症
- MP-513 (中国)
2型糖尿病
- MT-2355 (日本)*2
5種混合ワクチン(4混+Hib)
- MT-2271 (米、欧、カナダ他)
季節性インフルエンザ予防
- MT-5199 (日本)
遅発性ジスキネジア
- MT-6548 (日本)
腎性貧血
- MT-5547 (日本)
変形性関節症

申請

- MP-513 (インドネシア)
2型糖尿病
- TA-7284 (インドネシア)
2型糖尿病
- MP-214 (韓国、台湾)
統合失調症
- MCI-186 (スイス)
筋萎縮性側索硬化症
- パリキサ (日本)
小児・臓器移植における
サイトメガロウイルス
感染症の発症抑制
- MCI-186 (カナダ)
筋萎縮性側索硬化症

承認

- ノバスタン (中国)
虚血性脳梗塞急性期

*1: 治験依頼者: ヤンセン リサーチ アンド デベロップメント
 *2: 阪大微生物病研究会(日)と共同開発

主な導出品 (フェーズ3以降)

フェーズ3

- TA-7284 (国際共同治験)*1
糖尿病性腎症
- MT-4580 (日本)
副甲状腺がんおよび原発性
副甲状腺機能亢進症における
高カルシウム血症
- MT-210 (米国、欧州)
統合失調症

承認

- MT-4580 (日本)
維持透析下の二次性副甲状腺
機能亢進症

申請

- TA-7284 (米国、欧州)
心血管疾患の既往がある、または
心血管疾患リスクがある2型糖尿病
における死亡リスク低減
(CANVAS/CANVAS-R)
- FTY720 (米国、欧州)
小児・多発性硬化症

注意事項

本資料に記載した一切の記述内容は、現時点での入手可能な情報に基づき、一部主観的前提をおいて合理的に判断したものであり、将来の結果はさまざまな要素により大きく異なる可能性がありますので、ご了承ください。